

AQUA

5月号

2026 MAY No.401

一般社団法人BMW技術協会 機関紙

夫婦岩 / 岡山県高梁市

第35回BMW技術全国交流会に向け 第1回実行委員会（キックオフミーティング）開催

◎全国交流会への道①

4月16日（木）、岡山県岡山市の岡山国際ホテルにて、「第35回BMW技術全国交流会」の開催に向け、「第1回実行委員会（キックオフミーティング）」が開催され、27名が出席しました。

実行委員会では、出席者自己紹介からBMW技術全国交流会の説明、開催概要案の報告と、全国交流会のテーマを決めるための意見交換等が行なわれました。

◎出席者の自己紹介

はじめに団体ごとに出席者全員が自己紹介を行いました。

これまでのBMW技術全国交流会は農業生産者を中心となっており、今回一般廃棄物処理を本業に岡山県内のBMW技術プラントの管理と、ベトナムでのBMW技術普及を行なっている三美産業、そし

てグリーンコープおかやまが中心となり、どちらかと言えば消費者、生活者からの視点で全国交流会の準備を進めていくことが特徴的です。

- ・三美産業（3名）
- ・グリーンコープおかやま（15名）
- ・グリーンコープ連合会（2名）
- ・西日本BMW技術協会（4名）
- ・BMW技術協会（3名）

◎報告事項

（1）BMW技術全国交流会について
BMW技術協会事務局の秋山より、岡山県で全国交流会を開催することに至った経緯、BMW技術全国交流会の内容について、実行委員会の役割などの説明を行いました。

（2）第35回BMW技術全国交流会の開催概要（案）について
すでに決まっている日程と会場を含めた開催概要（案）の報告を行ないました。

*開催概要（案）は後述

全国交流会の内容やオプション視察についてはスケジュール詳細を含め、引き続き実行委員会で検討していきます、最終的には7月までに決定することを確認しました。

また、岡山県内のグリーンコープ産直生産者（稲作・野菜・果樹）に事前学習会などに参加していただき、視察先の候補として加わっていたかどうか、他の視察先の検討を含めて協議していくことを確

認しました。

◎協議事項

（1）実行委員長と副実行委員長の選任

実行委員長には三美産業の妹尾芳訓代表取締役、副実行委員長にはグリーンコープおかやまの安場美須寿理事長が選任され、その他の実行委員と事務局の確認を行ないました。

■実行委員長

株式会社三美産業

代表取締役 妹尾芳訓

■副実行委員長

グリーンコープおかやま

理事長 安場美須寿

（2）全国交流会のテーマについて
全国交流会のテーマを決めるための意見交換をおこないました。
全国交流会開催にあたって、テーマはとて重要なものです。BMW技術の循環のイメージやこれまでの全国交流会テーマを基に、沢山のキーワードが出されました。

特に第28回（熊本大会）の「がまだせ」第33回（秋田大会）で「けつぱれ」など、開催地ならではの方言が使われたことを受け、岡山弁を使った提案が多く出されました。

最終的にはこのキーワードを基に次回5月の実行委員会までに、三美産業とグリーンコープおかやまがテーマをいくつか提案することになり、6月のBMW技術協会総会までに決定することを確認しました。



岡山国際ホテルで開催された第1回実行委員会



妹尾芳訓実行委員長（左）と
安場美須寿副実行委員長



自己紹介をするグリーンコープおかやま
理事と組合員事務局の皆さん



実行委員会前には会場見学が行なわれました

◎提案のあったキーワード

【環境、水、命】

- ・ 岡山の環境、ゴミから食べ物を作る、生ゴミ処理、バイオマスなど
- ・ 晴れの国だけでなく水が豊富（岡山県内には高梁川、吉井川、旭川の3つの一級河川がある）
- ・ BMW技術やグリーンコープが大切にしている「循環」
- ・ 命をつなぐ水の大切さ（PFAS問題など）、豊かな水資源を残していく
- ・ 岡山の豊かな自然の恵みを未来に継承（つなげて）していく
- ・ 命をつなぐ循環をつくる
- ・ 子供達の未来⇨人と時間の循環
- ・ 岡山の食と農、水の循環

【社会、平和】

- ・ ウクライナ、イラン、パレスチナをはじめ戦争が多い、平和を願う
- ・ 物価や資材、エネルギーの高騰を通り越して入手危機
- ・ 食糧がなくなっていく、「飢えるか？植えるか？」

【人、行動】

- ・ 人と人のつながりの大切さ（全国の会員が岡山に集まり交流する）、人の輪
- ・ 安心安全な食の生産と消費
- ・ ここ（全国交流会）に結集して始まる、未来につなげる行動
- ・ 思いはあっても、なかなか実践に結びつかない→やってみよう、作ってみよう
- ・ BM菌体での生ゴミ処理だけではなく
- ・ ↓家庭菜園での活用、一歩進んで実践！

【地元色、岡山弁】

- ・ 晴れの国、岡山／桃太郎／水の物語
- ・ 「このままじゃおえん（いけない）ー！」
- ・ 「ぼっけー、でーれー、もんげー、（すごい）技術」
- ・ 「めぐりょんじゃー（循環してるんだ）」
- ・ 「やってみられ、今せられ（今やりなさい）ー！」

（3）次回の実行委員会

日時 5月22日（金）10時～12時
会場 グリーンコープおかやま本部

以上で第1回実行委員会は終了となりましたが、今回のテーマを決めるための意見交換、提案されたキーワードは2月26日に開催した「第25回BMW技術基礎セミナー」のオープンプフォーラムで議論された、「飢えるか？ 植えるか？」、この流れを受けたかのようにでした。

基礎セミナーでは、「農業の問題は生産者だけの問題ではなく、私達人間にとっての命をつなぐ「食」の問題である。今後は消費者・生活者も主体的に関わり、自給の形を個人、そして地域で模索していくことが大切」との提言がなされました。

この提言をさらに深く模索していくような全国交流会になるのではないかとこの予感を、この第1回実行委員会（キックオフミーティング）で感じました。今から開催がとも楽しみます。

（報告：BMW技術協会事務局 秋山澄久）

開催概要（案）

◎11月25日（水）13時30分～

開会セレモニー／基調報告／基調講演
開催地事例報告等／総括／懇親会

◎11月26日（木）9時～12時

BMW技術に関する実験・事例報告
その他の事例報告等

※午後からオフション視察

◎会場：岡山国際ホテル

※岡山県岡山市中区門田本町

◎オフション視察（バス利用・車中弁当）

①岡山BMコース

きじまる堆肥センター（有機堆肥製造）と三美産業が管理する生物活性水プラント（高梁市）、食肉加工センターのBM排水処理プラント（井原市）、奥地先生による石灰岩の露頭（高梁市）

②真庭市バイオマスコース

真庭市は、地域資源である森林と生ゴミを活用し、持続可能な資源循環型の産業と暮らしを実現していく『バイオマス産業都市』。木質バイオマス（発電）と生ゴミバイオマス（ガス・液肥）施設の視察

③グリーンコープおかやま関連コース

＊バスは最終的に、岡山空港→岡山駅
↓岡山国際ホテルへ

＊視察を終えてから地元に戻れない参加者向けのワンモア企画（26日の宿泊と懇親会）を予定しています。

なお、開催案内と参加申込書は、7月下旬から8月上旬に、BMW技術協会会員及び関係者の皆様へ発送予定です。

千葉BMW技術協会「BMW技術基礎学習会報告」

現代人は慢性的なミネラル不足！

『食・農・環境』の課題をミネラルの視点から探る

3月26日(木)、千葉BMW技術協会はパルスシステム千葉船橋本部(千葉県船橋市)にて、「BMW技術基礎学習会」を会場およびオンラインでハイブリッド開催し、計17名が参加しました。

講師にBMW技術協会事務局局長の秋山澄兄氏、同協会全国理事の磯田有治氏を迎え、「もっと身近にB(バクテリア)M(ミネラル)W(ウォーター)」と題し、初心者にも分かりやすく講演いただきました。



パルスシステム千葉 船橋本部での学習会

学習会は2部制とし、1部目は磯田氏より「現代人は慢性的なミネラル不足」食・農・環境の課題をミネラルの視点から探る」と題した講演が行なわれました。

自然生態系モデルを起点に、ミネラルの役割や重要性、現代社会で不足している原因、健康への影響、そしてその改善策について解説がなされました。

特に、ミネラル不足の要因として「食」とライフスタイル「農」「環境」の3点が挙げられ、参加者にとっても決して他人事ではない切実な課題であることが示されました。

また、健全な農産物を育むためには、健全な土壌と水が必要不可欠であることも強調されました。

後半2部目は、秋山氏より「BMW技術を通して自然循環を学ぼう」と題し、微生物を活用したBMW技術の理念や事例、環境・農業・生活への応用について解説いただきました。

実際にBMW技術を導入しているパルスシステムの産直産地は数多く、その輪は国境を越えて広がっています。長年の歩みを経て、耕畜連携の重要性が広く理解・定着しはじめていることが感じられる内容でした。

また、暮らしの中で活用できるBMW技術として、生活用の生物活性水「生物

活性水BMそら」も紹介されました。パルスシステムではしばらく取り扱いが休止していましたが、今後企画再開に向けて調整をすすめていること。再販を待ち望む組合員の期待の声も寄せられました。

家庭菜園やペットケア、消臭、掃除など、身近なシーンでの活用方法が紹介されたほか、会場参加者には試供用サンプルが配布され、講演の内容を家庭で実践できる貴重な機会となりました。

○学習会参加者からの感想及びご意見

・ 本日、初めて「BMW技術」という言葉を知りました。私たちの生活にとっても大切なものであることがわかりました。暮らしの中でも簡単に活用できる」と知ったので、ぜひ使ってみたいと強く思いました。

・ 野菜に含まれるミネラルなどが、昔より今の方が減っていると聞いて驚きました。

・ 「健全な土壌・水に戻すための取り組み」や「自然界に学ぶ有機農業の推進」といった難しい課題は、すべてこれから優先的に必要なことだと感じ、ありがたい思いでいっぱいです。

・ 何回か話を聞くうちに、理解が深まってきました。特に今回は、身近なミネラル不足やその大切さについてのお話分かりやすく、「だからBMW技術なのだ」と腑に落ちました。自然の循環を再現することや、そこにある菌を大切にすることなども、丁寧に説明いただき、ありがとうございました。

・ 岩石、海水、人体、血液のミネラル成分バランスが近似していると知り、人が自然の一部であることを改めて感じました。自然生態系をモデルとしたBMW技術についてもっと多くの方に知ってもらい、自然からかけ離れた現代社会を見直すきっかけになればと思います。

・ 人間にとって非常に大事なミネラルが、食生活の変化や土壌の栄養減少によって不足していること、その事実が気づかず生活していたのだと痛感しました。(報告：千葉BMW技術協会事務局鈴木善成)

◎書籍のご案内

「BMW糞尿・廃水処理システム」BMW技術協会顧問の長崎浩氏著書 農文教の民間農法シリーズから発刊されている、「BMW糞尿・廃水処理システム」。BMW技術協会・匠集団そらのホームページのWEBショップでご購入できます。BMW技術のバイブル、この機会に是非、お求め下さい。



◆WEBショップは、上記のQRコードからご利用になれます。

◎あいコープ農法研究会（みやぎBM技術協会）
『資源循環型農業推進プロジェクト』第2期がスタートしました

4月3日（金）、宮城県仙台市のあいコープみやぎにて、あいコープ農法研究会（みやぎBM技術協会）による。あいコープ資源循環型農業推進プロジェクト第2期のスタートミーティングが行なわれました。

この資源循環型農業推進プロジェクトは、有機栽培の技術向上を目指して2023年にスタートしたプロジェクトです。BMW技術協会全国理事の磯田有治氏を講師に、これまでの3年間は土壌と有機栽培の基礎的な学習から、堆肥用の種菌づくり、堆肥作りなどの実践を交えて学んできました。2025年度で3年間（第1期）のプロジェクトを終え、今年からは第2期ということで、さらなる技術向上と安定した栽培と収量の向上を目指していきます。



参加者が熱心に講師の話に聞く

さらに生物活性水について、応用型の生物活性水を作るなどBMW技術そのものの活用も進めていきます。

講師は今年度からも磯田有治氏にお願いし、アドバイザーとしてBMW技術協会の秋山事務局長も参加しています。

◎スタートミーティング詳細

1. 昨年度までの成果と課題

このプロジェクトに参加している、大郷クリーンファーマーズ、はさま自然村、七郷クローバースファーム、秋保ゆうきの会の自家製堆肥の分析を行ない、磯田氏が評価を行いました。全体的にC/N比が目標より低く、炭素分を十分に投入しているが腐菌床や米糠などを多く入れてしまったため、窒素分が高くなり、よってC/Nが低くなってしまったことが主な要因との指摘がありました。

2. 堆肥設計について

2010年に行なわれた、千葉県「野田・循環型社会システムづくり研究会」の取り組みが紹介され、主な堆肥原料の成分（窒素・炭素など）の再確認と設計の計算方法のおさらいを行ないました。

- ① 堆肥設計の見直し→当初設計は、炭素分が発酵により炭酸ガスで放出される分を考慮に入れて、設計する。
- ② 発酵温度が上がらなくなると、カオリが足りない場合は、米ぬか等を活

用すれば、C/N比の低下を抑制できる。
③ 当初設計で堆肥素材のC/N比が20、25程度のもや、植物質原料を多めにすれば、C/N比は高めに推移する。

3. BMW技術の基本のおさらいと現場での活用法

BMW技術の基礎について、B（バクテリア）、M（ミネラル）、W（ウォーター）それぞれの役割と関係性についての説明が行なわれました。特にミネラルのところでは、野菜のミネラルや栄養価の低下を例に取り上げ、ミネラル不足を克服するために必要なことについて説明がありました。

- ① 土壌においてミネラルバランスが整っていること
- ② 微生物量が豊富で、微生物バランスが整っていること
- ③ 有機物量が豊富で栄養成分が充分にあること
- ④ 団粒構造を持った土であること（土が柔らかく、排水性が良く、かつ保水力や保肥力が高い）

4. 堆肥と生物活性水づくりの目的

堆肥や生物活性水づくりにおいては、何の課題に対処するために活用するのか目的を明確にすることが重要。目的に合わせた堆肥作り、土壌づくりを目指すことを確認しました。

- ① 土壌の団粒構造の向上、作物の病害抑制
- ② 土壌害虫、連作障害の抑制
- ③ 作物の品質や食味を向上させるなど
- ④ pHの調整など

5. 有用微生物の特徴

茨城BMの生産者の取り組みを事例に、麹菌や酵母菌、枯草菌（納豆菌）、放線菌など、それぞれの菌の特性と活用方法について説明がありました。

- ① 身近にある地域資源や発酵食品残渣等には特有の微生物が存在している
- ② それら微生物の特徴や相性を知り、堆肥づくりや生物活性水づくり等に応用
- ③ 課題に沿った作物生産に役立たせることができる。

6. 今年度の目標設定

- ◎ 堆肥設計の見直し
- ◎ 堆肥作り、土づくりの目的を明確にする
- ◎ 応用型生物活性水の作成と実践講座の開催

◎ 7月を目処に第2回学習会を開催
（報告：みやぎBM技術協会会長 西塚忠樹）



会場全体



カネシゲファーム・
ルーラルキャンパス
(フィリピン・ネグロス島)

3月2日(月)から5日(木)、フィリピン・ネグロス島のカネシゲファーム・ルーラルキャンパス(KFRRC)を訪問、理事会への出席とプラント点検を行いました。

KFRRCは5haに広がる農場で、養豚と有機野菜の生産を中心とした循環型農業を実践しています。豚舎から出る糞尿排水を元に、バイオガスプラントとBMW技術の複合設備を構築し、エネルギーの自給と堆肥・肥料の自給を目指しています。また、循環型農業の実践・普及と次世代農民の育成のため、研修生や学生を対象とした農場実習などの取り組みも行なっています。

KFRRCの理事会は年2回開催され、日本人2名を含む6名の理事とKFRRCのスタッフ全員がオブザーバーとして出席しました。今回から新たに1名の理事

が加わり、理事が7名となったことが報告されました。

理事長には引続きビビアン・バルガス氏が選任され承認されました。ビビアン氏は養豚のスペシャリストでもあり、KFRRCのアドバイザーとしてもKFRRC設立当時から運営に貢献されています。

次にKFRRCのスタッフから2025年の活動報告、決算報告が行なわれ承認されました。

2025年11月に台風が直撃し、人的被害を含む大きな被害は無かったものの、植えたばかりのバランゴンバナナが数百本倒され、予定していた収入は大きく減ってしまいました。

さらに近くのカンラオン山の度重なる噴火による降灰の影響で、野菜や果樹の栽培が安定せず、気象変動に加えて2026年も不安を抱えたまま栽培を行なっていると報告がありました。

また、KFRRCで研修を終えた卒業生数名が、11月の台風で家や家畜が流され、田畑が水没するなどの被害に遭い、NPO法人APLAから緊急支援を受けるなどして

復興を目指している報告もありました。

理事会後は、第11期研修生の卒業式が行なわれました。2025年6月末から研修をはじめ、農薬や化学肥料を使用しない野菜・果物の栽培や養豚など、循環型農業の知識や技術について学んできました。農業研修だけではなく、料理や洗濯など、これまで親に任せきりだった日々の仕事も自分たちで担うことで、自立した一人の人間として生きていくことも学びました。

卒業証書授与式には、KFRRCスタッフへの感謝の言葉を伝えながら涙ぐむ研修生もいました。スタッフからは旅立ちに向けて激励の言葉が送られ、農場長のカルロス氏からは「卒業で終わりではない。私たちは家族だから、困ったことがあったらいつでも連絡しておいで。私たちにできるサポートは何でもするから」とあたたかいメッセージが送られました。これから研修生たちは自分の地域に戻り、KFRRCで学んだ農業を実践していきます。

(報告：BMW技術協会事務局 秋山澄久)

ベトナム・ハノイ NVS-G 社

4月12日(日)〜14日(火)、ベトナムのハノイにあるNVS-G(ニッポン・ベトナム・サステイナブルグリーン社)を訪問しました。同社は岡山県の三美産業(BMW技術協会法人会員)とベトナムのANVIEET社による合弁会社で、ベトナムにおけるBMW技術の普及を行なっています。

昨年、同社の倉庫に生物活性水プラントを、また近隣の養鶏場に飲水改善プラントを設置しました。今回はプラント点検と新たに生物活性水プラントを導入する予定の農場を訪問しました。

新しくプラントを導入する農場は、約20haの土地を政府から借り受け、葉野菜を中心とした栽培と堆肥作りに取り組んでいます。ベトナムGAP認証を取得し、ペーパリーフやパクチーなどのベトナム料理には欠かせないハーブ類をスーパーなどに卸しています。

生物活性水の主な目的は堆肥作りとのことで、近隣の養鶏場から鶏糞を手に入れた堆肥作りを目指すそうです。プラントの設置は6月に行ない、生物活性水の完成は7月末を予定しています。

また、プラントにはステンレス製のパネルタンクを使用、1槽が2t×5槽で日生産量は200Lです。別に貯留槽を準備し、堆肥の水分調整や発酵促進に活用するほか、灌水にも使用する予定です。

(報告：三美産業 井上正樹)



KFRRCの理事会



卒業証書を渡すビビアン氏(右)



3名の卒業生とKFRRCスタッフ



新規プラントに使用するパネル水槽



プラントを導入する農場



清水茂氏（清水養鶏場の生物活性水プラント）

◎清水養鶏場（静岡県静岡市）

3月26日（木）、昨年8月に「生物活性水」と「飲水改善プラント」を導入した、静岡県静岡市の清水養鶏場にてプラント点検を行いました。

清水養鶏場では、飲水改善に加え、昨年12月からは生物活性水を飲水に1000倍に希釈して添加。鶏たちの腸内フローラを整え、内側から健康な飼育をサポートする取り組みを続けています。

また、この生物活性水は、鶏糞堆肥を作る際にも散布され、発酵促進に活用されています。

今回の点検で伺ったお話の中で、特に印象的だったのが「臭い」の変化です。

以前は、鶏舎からの糞出し作業をした日に帰宅すると、ご家族から服の臭いを指摘されることが多かったそうです。最近では「気づかれなくなった」とのこと。（作業着に残る臭いがそれだけ軽減されたということですね。）



高知農業高校の生物活性水プラント

生物活性水の活用によって、ハエの発生をどこまで抑制し、より快適な作業環境を維持できるか。清水さんもその効果を非常に楽しみにされていました。

（報告：匠集団そら 遠藤尚志）

◎高知県内のプラント点検

○高知県立高知農業高校畜産総合科

3月26日（木）、高知県南国市にある高知県立高知農業高校畜産総合科で生物活性水プラントの定期点検を行いました。プラントは畜舎の横に、FRP製の受水槽4槽を設置してあります。

定期点検は、リアクターシステムの充填材の交換、有機物抽出用の堆肥の交換、各槽の計測と調整です。

生物活性水のEC（電気伝導率）は、0.3mS/cm、pH7.4、亜硝酸態窒素は検出ませんでした。ECが前回よりかなり低くなっていたので、定期的な堆肥の交換をお願いしました。



高知農業高校の酪農牛舎（母牛は7頭）

畜舎には、酪農用に母牛が7頭、子牛が2頭。養豚用は、雄豚1頭、母豚3頭、仔豚9頭。採卵鶏（土佐ジロー）として50羽が飼育されています。この畜舎から出てくる畜糞は、攪拌堆肥舎で堆肥にして、畜産総合科の牧草地へ還元利用しています。

生物活性水は臭いの抑制を主な目的に、堆肥づくりや畜舎内の清掃時に利用されています。

○四万十町・十和堆肥センター

3月27日（金）、四万十町・十和堆肥センターを訪問、生物活性水プラントの定期点検を行いました。

十和堆肥センターでは、十和地域振興課の三浦さん、日常管理をいただいている宮地さん、そして今回から宮地さんの後を引き継ぐ佐藤さんにも立ち会っていただきました。

佐藤さんに充填材の交換方法、堆肥の交換、エアポンプの点検方法などを覚え



左から三浦さん、宮地さん、佐藤さん

ていただきました。

生物活性水のECは、1.33mS/cm、pH8.0、亜硝酸態窒素は検出しませんでした。生物活性水は宮地さんは菜花に、佐藤さんは三つの栽培に使っています。

○夢産地とさやま開発公社

3月27日（金）、高知市土佐山の夢産地とさやま開発公社・とさやま土づくりセンターにて、生物活性水プラントの点検をしました。点検は担当の山崎博さんと一緒に行いました。

生物活性水プラントは2レインあり、それぞれ5tのホロータンク×5槽、日生産量は500Lです。生物活性水のECは、1.03mS/cm、pH8.2、亜硝酸態窒素は検出しませんでした。生物活性水は、有機堆肥「BMとさやまモコモ」の製造（臭気抑制、発酵促進）と有機野菜の栽培に活用されています。

（報告：匠集団そら 星加浩）



山崎さん（とさやま土づくりセンター）

◎セイキ環境管理（千葉県柏市）

4月7日（火）、千葉県柏市のセイキ環境管理にて、BMW技術・生物活性水プラントの定期点検を行いました。

今回の点検ではシステム全体の順調な稼働を確認し、併せて半年に一度のリアクターシステムの充填材交換作業を行いました。生物活性水のECは0.73 mS/cm、pH7.8と、良好な状態でした。

セイキ環境管理の生物活性水は、主に食品加工工場の排水処理施設にて点滴投入され活用しています。セイキ環境管理の技術責任者である星野浩士さんから、「特に油脂類の分解能力や臭いを抑える効果に定評があり、負荷の高い排水を安定処理するために欠かせない存在となっている」とのことでした。

生物活性水を安定して供給し続けられるよう、今後も定期的な点検を継続していきます。

（報告：匠集団そら 遠藤尚志）



セイキ環境管理の生物活性水プラント

BMW
トピックス

協会・地方協会等の情報

◎やまなし自然塾

4月2日（木）、山梨県笛吹市のホテルやまなみにて、やまなし自然塾の2025年度総会が開催されました。出席者は約30名。

総会では2025年度の活動と会計監査報告、2026年度の活動計画と予算案、会計監査人の選任の3つの議事が承認されました。

活動計画では、今年の11月に開催する第35回BMW技術全国交流会への参加も盛り込まれ、会のメンバーから、「初めての岡山開催ということもあり期待しています」という声をいただきました。

総会後は懇親会が行なわれ、交流を深めました。初参加のメンバー（甲州市のぶどう農家）の紹介があり、生産者の高齢化が進む一方で、少しずつですが新規就農の若手が増えてもいます。



やまなし自然塾の総会

◎BMW技術協会常任理事会

4月9日（木）、東京都新宿区のTKP飯田橋ビジネスセンターにてBMW技術協会常任理事会が開催され10名が出席しました。

常任理事会の主な議題は2025年度（第15期）の活動報告と決算報告、2026年度（第16期）の活動方針・活動計画と予算案でした。2026年度（第16期）の活動方針・活動計画として、8月3日から4日まで米沢郷牧場グループで開催される、「第26回BMW技術基礎セミナー」、11月に開催される、「第35回BMW技術全国交流会」などが挙げられました。

また、全国交流会の発表に向けた若手3名の生産者の実験サポートや、奥地拓生氏による「水」に関する講座の開催などを検討していることも報告されました。

なお、今年の第15回定時総会は6月25日（木）15時半から、千代田区神田神保町のTKP九段下神保町ビジネスセンターで開催することが決議されました。

◎匠集団そら 第33回定時株主総会

4月9日（木）、東京都新宿区のTKP飯田橋ビジネスセンターとオンラインのハイブリッド形式にて、匠集団そら・第33回定時株主総会が開催されました。

会場とオンラインで株主16名が出席（委任状を含め43名の出席と出席株数1147株を確認）。第1号議案（第33期決算・監査報告）、第2号議案（第34期事業計画と予算案）が承認されました。

（報告：BMW技術協会事務局 秋山澄元）

◎第26回BMW技術基礎セミナー
開催のお知らせ

8月3日（月）～4日（火）の2日間、山形県の米沢郷牧場グループにて「第26回BMW技術基礎セミナー」を開催します。

地域資源循環型農業とBMW技術のバイオニア、米沢郷牧場グループにてBMW技術施設をはじめ、堆肥センター、飼料工場、養鶏場、果樹と稲作生産者の圃場、ファーマーズ・クラブ赤とんぼの精米施設などの視察を行ないます。

また、昨年より新たに始まった、地域の酪農生産者との有畜複合（堆肥製造）の取り組みをはじめ、現在の米沢郷牧場グループの取り組みについて学びます。

今回の基礎セミナーは1泊2日で開催しますが、1日のみの参加もできます。懇親会等では交流も深め、生産技術などの情報交換も多く行なわれます。この機会を逃さずに、是非ご参加下さい。

なお、開催案内は5月の連休明けに、BMW技術協会会員及び関係者の皆様にメールと郵送で発送いたします。



米沢郷の堆肥センター



高品位（凝灰岩）

事務局だより

BMW
技術協会
&
匠集団そら

2026年
4月
APRIL
2026年
5月
MAY

【4月の活動】

- 2日 山梨県笛吹市で開催された、さまざまな自然塾の総会に出席
- 3日 宮城県仙台市のあいコープみやぎで開催された、あいコープ農法研究会「資源循環型農業推進プロジェクト・BMW学習会」に参加
- 7日 オンラインにてBMW技術協会若手幹事会を開催
- 9日 東京都千代田区のTKP飯田橋ビジネスセンターにて、BMW技術協会常任理事会と匠集団そら第33回定時株主総会を開催
- 10日 大分県中津市の耶馬溪ファームにて定例建設会議に出席
- 12～14日 ベトナム・ハノイ市のNVSSG社にてプラント点検。新たなプラント導入に向けた現地調査など
- 16日 岡山県岡山市の岡山国際ホテルにて、「第35回BMW技術全国交流会」第1回実行委員会（キックオフミーティング）に出席
- 17日 山口県柳井市の河村農園にてプラント巡回
- 23日 埼玉県さいたま市のパルスシステム連合会・岩槻センター、飯能市の生活クラブたまご・飯能GPセンターにてプラント点検
- 25日 福島県福島市で開催されたグリーンコープふくしま5周年感謝祭に参加
- 26日 オンラインで開催されたNPO法人APLAの理事会に出席
- 27日 福岡県福岡市のグリーンコープ連合会本部で開催された西日本BMW技術協

- 会役員会に出席
- 30日 福島県二本松市のSunshineにてBMW技術学習会「堆肥づくりの基礎」を開催

【5月の予定】

- 1日 茨城県内のBMWプラント巡回
- 7～9日 秋田県北秋田市と小坂町のポークランドグループにてプラント点検
- 13～18日 インドネシア・ジャワ島とスラウエシ島のA-INA社にてプラント点検
- 14～16日 北海道・根釧地域にて根釧みどりの会のプラント点検（4カ所）
- 22日 岡山県岡山市のグリーンコープおかやま本部にて開催される、第35回BMW技術全国交流会の開催に向けた、第2回実行委員会に出席
- 24～30日 大分県中津市の耶馬溪ファームにてプラント設置工事

■事務局長の呟き

第35回BMW技術全国交流会の開催に向けて、実行委員会のキックオフミーティングが開催されました。いよいよ今年度も始まったという実感が湧いてきました。

話しは変わりますが、皆さん「推し活」していますか？。先日の全国交流会実行委員会の懇親会で話題になり、皆さん「推し」をお持ちのようでした。私の「推し」はと聞かれましたが、すぐには思いつかず、少し考えました。その結果、「岩石・特に花崗岩」という回答に至ったのですが、微妙な空気を漂わせてしまったようです。皆さん、「BMW技術推し」をお願いします。今月は以上です。

薬膳の話 148 くぜんまい

今年の5月5日は「立夏」です。暦の上での秋が来る8月7日の「立秋」までの約3ヶ月間は、夏の養生です。とは言いですが、最近の日本の夏は立秋から更に暑くなります。暑さの続く間は夏の養生を心がけましょう。

夏は、1年の内で陽気が一番強く、暑さで心臓に負担がかかるため、心臓に熱がこもらないようにします。真夏に汗で老廃物や毒素を出せるように、5月ごろからウォーキングや適度な運動で身体を動かし、発汗しやすい身体を作ります。高温の屋外での運動は身体に悪いので控えましょう。

春の山菜です。この時期は下茹でして、あくを抜いたものが売られています。一年を通して水煮をパック詰めにしたものが、乾燥したものが手に入ります。国産と中国産のものがあります。

ワジビとの違いは質感です。ゼンマイの若芽は綿のような産毛に覆われていますが、ワジビはつるつるとしています。ゼンマイの綿は、集めて糸に紡ぎ、織物にもなるそうです。

四気は「微寒」、五味は「甘、微苦」、帰経は「肝臓、大腸」です。身体の熱や血の熱を取る性質があり、これによって冬の間にため込んだ熱や毒素を取り除きます。これは山菜に共通した特徴です。

昔から春には山菜を食べて、重くなった身体をすっきりさせていました。熱を冷まして血を止める「清熱止血」の働きもあり、鼻血や子宮出血などの出血性の症状に用いられます。寄生虫の駆除や、熱による下痢を抑える働きもあります。

●ナムル

- ・水煮のゼンマイは、さつと茹でてから食べやすい大きさに切り、水気を切っておく。
- ・フライパンに油を熱し、ねぎの小口切りとニンニクのスライスを炒める。
- ・ゼンマイと砂糖小さじ1/2を加えて炒り付ける。焦げそうになったら、酒(大)、醤油(大)、水(大)を加え炒め煮にする。
- ・水気が飛んだら、「マ油少々、白ごまを加える。

◎BMW技術協会事務局 佐々木エリカ

北京中医药大学日本校薬膳養成学科卒業
中医薬膳士、総合漢方研究会会員

